

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス コーシュリー		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 24日	～	令和 8年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 21名
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 24日	～	令和 8年 3月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員のキャリアが多岐にわたるため、より多角的な視点で子どもを見ることができる。 (小・中学校教員、介護施設勤務者、保健の教諭など)	・他業種という背景のため、バイアスがかかりやすい実態がある。 ・Zoomやyoutube、外部講師との学びを積極的に実施し、研修の機会を大切にしている。	・チームワークを図るため、各職員のよさを本人にもまわりのスタッフにも伝える。 ・会議の中で「傾聴タイム」を取り入れ、互いの思いや考えを“ただひたすら聴く”という取り組みをしている。
2	・支援の型にとらわれず、その日の子どもの状態をよく観察、察知した上で、療育のメニューを臨機応変に変えることができる。	・毎日のケース記録を週の始めに全職員で読み合い、5領域がバランスよく実施されているかを確認する。 ・その子の課題の優先順位を決め、系統性を大切にしている。	・何よりも保護者支援、家庭支援を大切にしている。気になる保護者、家庭のキーパーソンにリマインドのため電話や面談をまめにしていく。
3	・古民家を活用した施設なので、家庭的な環境のもと、子どもや保護者の支援ができる。 (庭での自由遊び、近くの公園でのルールのある遊び、畑での野菜づくり)	・古民家のため修繕が必要である箇所は、大家さんの協力を得ながら、修理を行い環境調整をしている。また、月1回は全職員で事業所の危険箇所等がないかの点検をしている。	・子どもたちにけがや事故のないように、日ごろから視覚教材を利用して伝えていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員自身の自己理解と他者理解をより深め、さらなるチームワーク作りに努めていきたい。	・福祉職を志す者は、実は「自分自身の痛み」を抱えつつ仕事をしている実態がある。職員へのカウンセリングをさらに大切にしていく。	・一人一人の職員の持ち味を大切にしつつ、より信頼し合える仲間づくりのために、細かな配慮をしていきたい。 (外部講師を定期的に招いて、第三者からの意見を参考にしている)
2	・年齢層、障がいの程度に幅があるため、集団療育の際にトラブルになることがある。	・「大集団」よりも「小集団」療育に軸足を移し、刺激量をコントロールしていく。	・子どもの担当者はほぼ決めて支援をしているが、現場の中で起こりそうなトラブルを早めに察知するためにも、常に全体を見するという視点を全職員が持てるように声かけをする。
3	・事業所間での連携ができていないので、子どもの状態が安定しないこともある。	・同じ子どもを見ている他事業所や相談事業所との連携があまりない。	・積極的に事業所間で情報を共有していきたい。また、学校との支援会議も積極的に行っていきたい。